下落合みどり幼稚園 月報

2026年4月　Vol.69　No.1

新宿区中落合4-3-1　℡3953-6112

「根づくこと、根を張る時間」

下落合教会牧師　有住航

新しい春を迎えました。幼稚園の庭にはさまざまな木々や花が植えられ、季節ごとに色とりどりの表情を見せてくれます。三月下旬には、下落合みどり幼稚園の創立後ほどなくして庭に植えられた樹齢七十余年の桜の木が今年も花を咲かせました。古木となって、枝が垂れ下がりながら、それでも若枝が生え出て、見事な花を咲かしつづけることにおどろかされます。

みどり幼稚園では年に数回、植木職人の方々に庭の木々を手入れしてもらっています。春休み中にも剪定の作業があり、桜の木も丁寧に見てもらいました。剪定作業の合間に、樹齢七〇年余の古木がいまも花を咲かしつづけられるのはどうしてなのかについて職人さんたちに尋ねてみたところ、きょうみぶかいことを教えてくれました。

この桜の木がいまも若枝を生やし、新芽を出すのは、おそらくこの木の根っこが庭にしっかりと根づいていて、深く広く張りめぐらされた根っこから水や養分を吸い上げるれているからです。だから、古木になっても、ちょっとやそっとのことでは枯れることなく、花を咲かしつづけられるのだと思います。街路樹として植えられている桜の木は周囲をアスファルトで固められているので、ある程度以上は根を伸ばすことができません。それゆえ、おおくの街路樹は一定の年数が来れば伐採するしかないのですが、この桜の木はこどもたちが駆けまわる庭の土中にいくらでも根を伸ばしつづけられるため、しっかりと立ちつづけ、花を咲かしつづけられるのだと思います。

花を咲かせ実をつけるためには、空に向かって枝が伸びなければならず、枝を伸ばすためには、幹がしっかりとしている必要があります。幹を支えるためには、地中にどっしりと根付いていなければなりません。そもそも、根をつうじて水や養分を吸い上げなければ、木は生きていくことができません。木全体を支え、その木を生かしめているのは、じつは目に見えない「根」の働きによるのです。

こどもたちがみどり幼稚園で過ごす日々を一本の樹木にたとえるなら、それは土の中のあちこちに根を伸ばしていく時間であり、いちばん深いところにあってすべてを支える土台となるものを育んでいく、そんな時間であるように思います。みどり幼稚園での日々がこどもたち一人ひとりの歩みを支えていく〈根（ルーツ）〉をゆたかに育んでいく時間になることを願っています。これからはじまる新しい生活に、よいことがたくさんありますように。